

事業概要【ICTの学校間格差の解消と学校教育DX推進事業】

自治体名	熊本県玉名市	人口	62,619人	事業費	94,237千円
事業概要	本市では、G I G Aスクール構想に伴い一人一台のタブレット端末を整備した一方、「電子黒板の整備」及び「プログラミング学習を効果的に行う為の機器」が十分に整備出来ていない。そこで、これらのI C T機器を整備することでI C T教育における学校間格差の解消を図り、個別・最適化された学びと協働的な学びの一体的な充実や主体的対話的で深い学びを可能とし、『教育の質の向上』と教育のDX化により教員の働き方改革を実現する。				
具体 サービス	【電子黒板の活用による授業のデジタル化等推進】 - 一部の市内小中学校で導入している電子黒板を市内の小中学校全体へ展開・導入することにより、デジタル教科書の指導者版の導入等と併せて、より効果的なI C T教育を実践する。 1人1台端末とデジタル教材や電子黒板を連携させ、同時双方向授業を行う。 - 児童生徒が個人の端末でまとめた考えを電子黒板に大型提示しての発表や協働学習を行う。 - 教材の準備時間を軽減することにより、教師の働き方改革を実現する。				
主な KPI	【アウトカム指標（成果指標）】 ①児童の授業理解度 ②生徒の授業理解度 ③熊本県及び全国学力・学習状況調査の平均点向上(児童) ④熊本県及び全国学力・学習状況調査の平均点向上(生徒) 【アウトプット指標（活動指標）】 ①電子黒板の使用頻度				

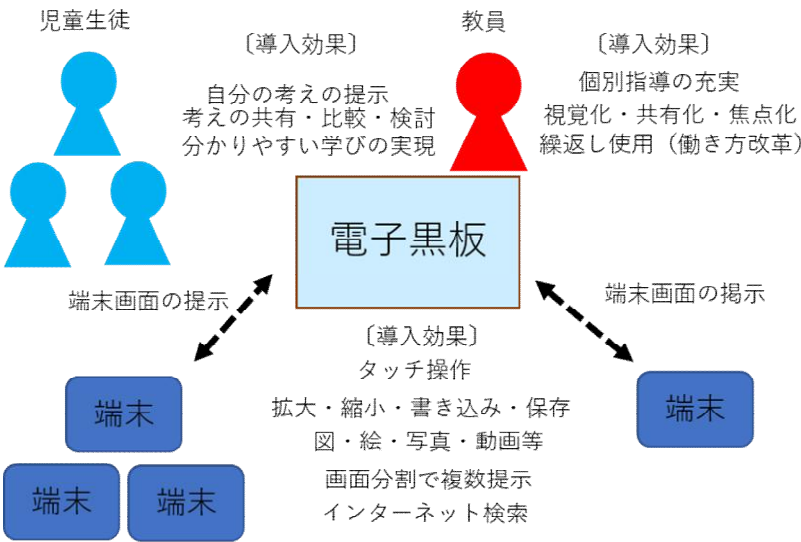
サービス概要（1/1）

サービス名	電子黒板の活用によるICTの効果的活用と授業のデジタル化等推進	事業費	94,237千円
ターゲット	玉名市立小中学校の児童生徒及び教員		
サービス内容			

- ・可動式電子黒板は、電源を押すだけで起動し、画面が明るく、色も鮮明で、どの席からも見えやすい。拡大・縮小、書き込み、保存等の操作も簡単で、手書き、タッチペンとも反応が速い。音質もよく、移動も安全にでき、黒板が全面使える。
- ・児童・生徒にとって、自分の考えをリアルに映し出したり、ミラーリング機能を使ってリアルタイムに学級全員の考え方が共有でき、話し合い活動の時間を十分確保できる。そのため、お互いの考えを比較・検討し、考えを深め、高め合うことができる。
- ・教員にとって、一人一人の学習状況をリアルタイムで把握でき、個別指導に時間が確保しやすくなり、個別支援がより充実する。また、図や絵、写真、動画等の教材の視覚化、学びの共有化、焦点化ができ、分かりやすい授業が実現できる。さらに、一度作成した教材を保存しておけば、復習・予習に繰り返し使えるので、教員の負担感軽減につながる。

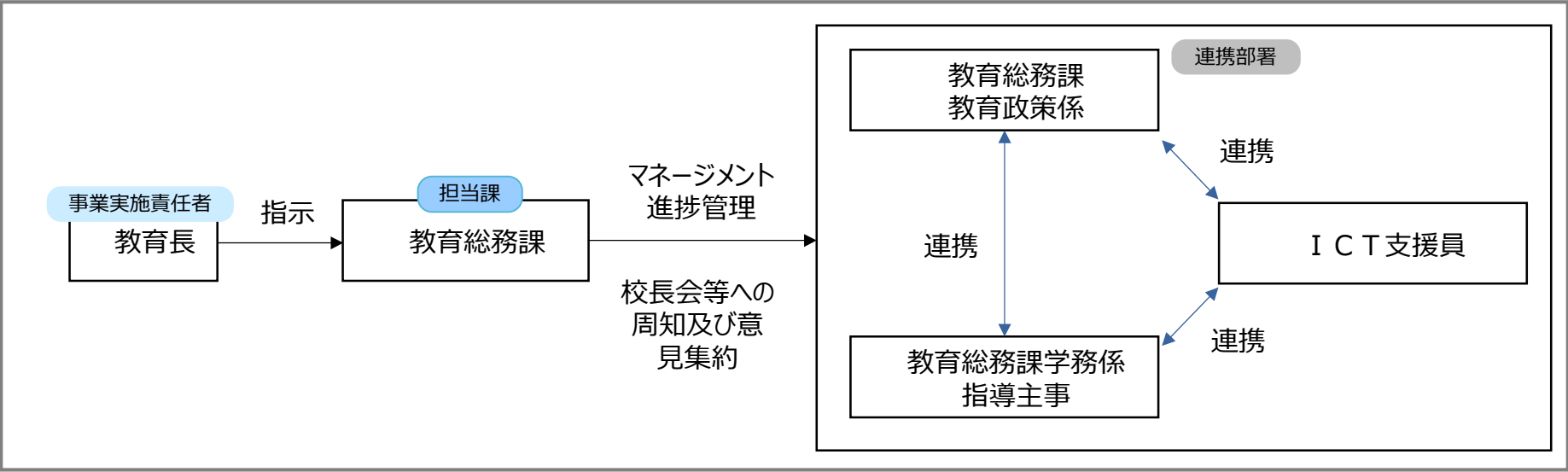
（配置計画）

市内小学校： 1 2 6 台
市内中学校： 6 5 台
合計： 1 9 1 台
※R5補正にて導入した3校を除く。



推進体制

■ 庁内の推進体制

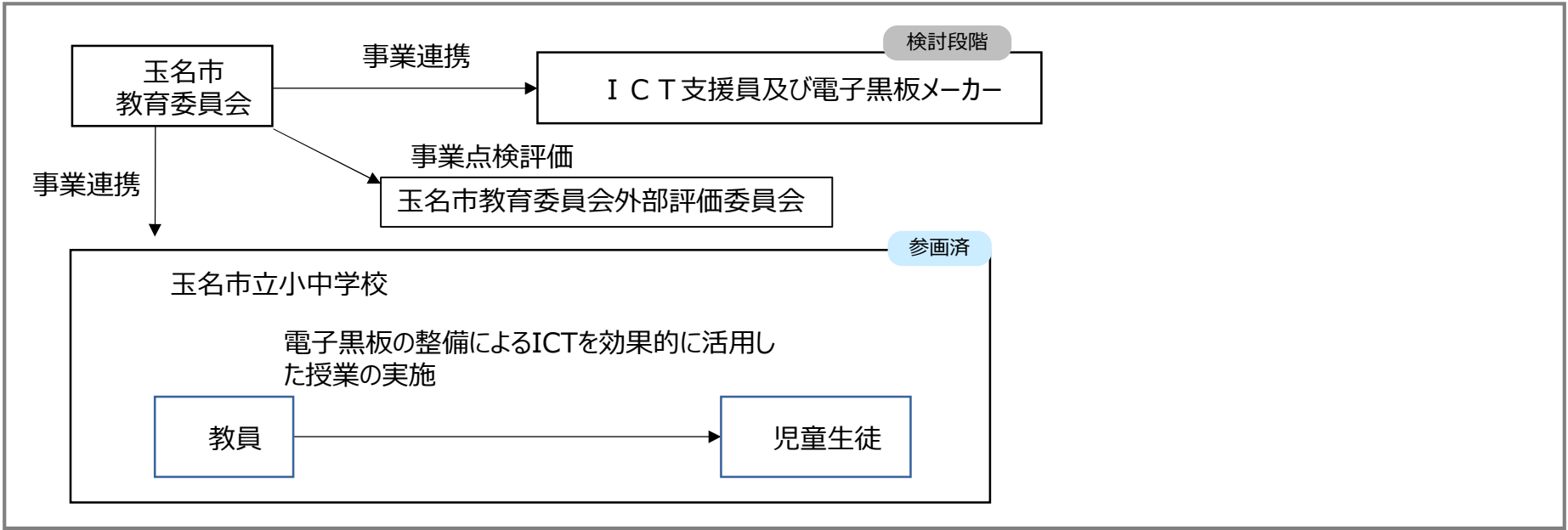


【各課室の役割】

名称	名称	役割
事業実施責任者	教育長	・ 事業実施責任者
事業担当課	教育総務課	・ 事業全体のマネージメント・進捗管理 ・ 校長会、保護者、地域等への周知及び意見集約
事業担当係	教育総務課 教育政策係	・ 電子黒板の整備
事業連携係	教育総務課学務係 指導主事	・ 教員向け研修会の企画・実施
連携機関	I C T 支援員	・ 教員に対する技術的支援 ・ 教員向け研修会の企画・実施の支援

推進体制

■ 事業推進体制



名称	役割
玉名市教育委員会	- 事業計画の立案 - 電子黒板の整備 - 研修会の実施 - 報告書作成をはじめとする事業全体の管理
玉名市立小中学校	- 研修会への参加 - 電子黒板を活用した授業の実施
外部評価委員会	教育に関し学識経験を有する5名の委員による業務の点検・評価
ICT支援員及び電子黒板メーカー	研修会の企画・実施支援

名称	役割

KPI達成状況

KPI		2025年度	2026年度	2027年度
①電子黒板の使用頻度（%）	目標値	65	70	75
	実績値	80.3	—	—
②児童の授業理解度（%）	目標値	55	60	65
	実績値	85.6	—	—
③生徒の授業理解度（%）	目標値	35	40	45
	実績値	76.1	—	—
④熊本県及び全国学力・学習状況調査の平均点向上（児童）（点）	目標値	75.1	全国平均点＋6点	全国平均点＋7点
	実績値	74.8	—	—
⑤熊本県及び全国学力・学習状況調査の平均点向上（生徒）（点）	目標値	62.8	全国平均点＋3点	全国平均点＋4点
	実績値	55.8	—	—

実績内訳（調達価格）

交付対象事業費		94,237千円	
経費項目	数量	期間	金額 (千円)
電子黒板購入費用 (65型スタンダー一体型)	386,210円×191台	令和7年7月～令和8年3月	73,766
電子黒板保証料	1,106円×8か月×191台	令和7年7月～令和8年3月	1,690
電子黒板付属品（書画カメラ）	41,800円×191台	令和7年7月～令和8年3月	7,984
電子黒板付属品（HDMIケーブル）	3,300円×191台	令和7年7月～令和8年3月	630
電子黒板付属品（電源タップ）	3,850円×191台	令和7年7月～令和8年3月	736
電子黒板構築費 (設計・ネットワーク設定)	71,187円×17校	令和7年7月～令和8年3月	1,210
電子黒板構築費 (搬入・組立・設定)	43,043円×191台	令和7年7月～令和8年3月	8,221

主な成果

・令和6年度に一部の小・中学校に導入した電子黒板を、令和7年度に全ての小・中学校へ導入し、授業効果の向上と教職員の負担軽減等、より質の高い教育環境の実現が図られている。

評価と課題

・各学校への電子黒板の導入が1年目だったということもあり、電子黒板の操作の習熟について、教職員間で活用スキルに差があるため、教職員間及び学校間の格差を解消し、導入した機器を積極的に活用していただけるよう教職員の活用スキルを高める必要がある。

今後の方針

・今後は、「個別最適な学び」及び「協働的な学び」を一体的に推進するために、各学校の情報教育担当者による会議等で電子黒板の多角的で効果的な活用事例の紹介等を積極的に啓発し、更なる活用率の向上に努める。また、教職員間及び学校間の活用スキルの格差解消にも取り組む。